

# 柳津町森林利活用ビジョン策定

## 第三回検討委員会 議事録（概要版）

令和6（2024）年10月23日（水）10:00～13:00

場所：柳津町森林公園・道の駅会津柳津

### 【出席メンバー】

出席委員：山下詠子座長（東京農業大学地球環境科学部森林総合科学科 准教授）

木村憲一郎アドバイザー（富士大学経済学科 教授）

高島幸司第3回講演会講師（東京農業大学客員教授）

委員10名（町内林業事業者、観光関係者、商工関係者、県立会津農林高等学校生徒3名）

出席オブザーバー：高鷲淳一オブザーバー（林野庁関東森林管理局会津森林管理署森林技術指導員）

木村充オブザーバー（福島県会津農林事務所森林林業部 林業課長）

渡部雅広オブザーバー（奥会津振興センター事務局次長）

事務局：佐藤雄一（柳津町役場地域課農林振興係長）

田部遼介（柳津町役場地域課農林振興係副主査）

受託事業者：会津里山森林資源育成研究会 会長星比呂志・副会長齋藤洋一・事務局長岩淵良太

### 第三回検討会 次第

#### 【第一部 森林公園】

1. 開会 「司会 会津里山森林資源育成研究会・岩淵良太氏」 ※以後、所属は研究会と略称
2. 挨拶 「柳津町地域振興課 係長 佐藤雄一」
3. 第二回検討会について 「事務局」
4. 議事「司会：検討会座長 山下詠子氏」
  - （1）柳津町森林公園について  
公園説明と散策
  - （2）ビジョンを構成する項目について  
第三回講演会の概要（高島氏）
  - （3）50年後の柳津町の森林のあるべき姿等について
  - （4）その他 オブザーバー等によるアドバイス等
5. その他
  - （1）第四回講演会、検討会について
  - （2）その他
  - （3）事務連絡

#### 【第二部 道の駅】

自由討議

6. 閉会

#### 【配布資料】

【内容・議事録】

2.挨拶	
柳津町地域振興課係長 佐藤雄一	自然の中でやる検討会良いと思います。活発な意見交換できるように、自然と一緒に解放されながら、意見交換していただければなと思います。
3.第二回検討会について	
事務局（星）	<p>第3検討会について。</p> <p>出席者およそ15名の方にご参加いただき議論を行いました。第2回は、先進地研修についての振り返りをいたしました。そのあとは、前回ご講演をいただいた、東京農業大学の非常勤講師の牧野先生に、森林昆虫と虫害についてのお話を聞きし、トビクサレの原因であるスギノアカネトラカミキリと、ナラ枯れの原因であるカシノナガキクイムシの振り返りをさせていただきました。また、中身については講演いただいた内容を、YouTubeにアップしましたので、知っている方だけが見られるようになっていきます。そのアドレスを皆さんにお送りしますので、見ていただいて詳しくわかります。スライドと先生と両方映っています。</p> <p>ビジョンを構成する項目ということで、主に観光について前回は議論いたしました。観光として森林をどう活用していくかということをお委員さんでアイデア出しを行いました。そのあとに森林管理署の高鷲オブザーバーからと福島県会津農林事務所の木村オブザーバーから国と県の現在の森林林業木材産業の施策についてお聞きしました。これはなぜかといいますと、今後森林作りをしていく上で、国や県の方針ということをお聞きすることが、自然な流れだと思いますし、もしもそれと違う方向であれば、それをきちんと意識していった方が、大事だと思っておりました。</p> <p>そのようなことで議論を進めていく中で、今度は全体の素材は揃ってきましたから、いよいよ50年後の未来の森を、どのようにしたいかあるべき姿にしたいかというのを、町の方、未来担う若者をそれから専門家と交えて、今後やっていきたいと思いますというところで第2回は終わりました。</p>
4. 議事【司会：検討委員会座長 山下詠子氏】	
(1) 柳津町森林公園について 公園の説明と散策	<p>星事務局：本日の全体のスケジュールを説明します。森林公園を二、三十分散策してから始めたいと思っておりました。高島先生にご講演の振り返りをさせていただいて、その後皆さんで50年後の森を考えるワークショップをしたいと思っております。</p> <p>その他でオブザーバーからのアドバイスいただいた後に、森林公園は終えて、道の駅に移動致します。道の駅でバーベキューを食べながら、自由討議を続けるといったような形です。</p> <p>山下座長：散策路を歩いていただきたいと思っております。いろいろな山の様子とかをご覧になりながら、歩いていただきたいとも思います。</p> <p>杉原委員：100年杉の森林ということで、この先に植林をした場所があります。手入れが行き届いていませんが、雑木やスギ林の森があるので、ぜひとも先生に見ていただきアドバイスをいただきたいと思っておりました。</p> <p>(入口案内看板前で)</p> <p>星事務局：これは当時の案内板で今若干施設が変わったりもしています。アスレチック広場とかは今もう老朽化して使わなくなったので、それがその代わりに総合遊具を作っている</p>

ます。今だいぶ木が大きくなって只見川の展望広場とかも見えない状態です。宿泊棟やキャンプ施設は使えない状態です。

(散策中)

齋藤委員：子供の頃に遠足できたことがあります。でも、場所がどこかわからなかったです。

目黒委員：柳津小の一二年生が森林観察で来ている。森の案内人の会津の方が同行して一周しています。見晴らしがいいのにもったいない。

杉原委員：昔森林公園は頼まれて、どの木を残したらいいかを役場と考えて、あのころ綺麗でした。20代の時にやりました。50年ぐらい前に作業をした。人もたくさんいましたし、どの木を伐るのかがやかましかった。あの頃役場の職員は、植木を盛んにやっていたから関心があった。

(宿泊棟の前で)

星事務局：高畠先生からキノコ栽培の話がありましたが、建物の中で煮炊きできる場所があれば、例えばここは雨が避けられて持ち込み可能な場所です。今は使われていなくて、元々管理棟で今は向こうで管理しているので。可能性はありますか？

高畠先生：昨日話したような、マイタケの原木とかを殺菌したい時や培養するときに中に置くのは一番いいと思いますが、中に置くのはちょっとはばかれるとかいうような感じでしたら、軒下にコンパネ等を斜めに置いていってブルーシートをかけてしまえば、それで培養することは可能かなと思います。中を使わなくてもできると思います。だからケースバイケースで、できるだけお金かけないやり方や楽しみ方があると思います。

(キャンプサイトで)

東委員：ここで、BBQや芋煮をやっていました。あっち側お寺の裏から上がってきました。子どもの時中学生まで来ていました。この下がお寺です。

橋本委員：遊歩道を使ってくると円蔵寺のくりの裏に出ます。ただ線路を跨ぐので、看板を外してくださいって言われました。踏切がないので危険なので。

東委員：学校行事で毎年来ていました。感謝祭をここでやって、芋煮会・餅つきをやりました。

橋本委員：おぼだき観音側は、温泉で管理していた時はきれいだけど、いまは荒れている。

佐藤係長：途中までは、今年予算で階段や木を伐る予定です。

山下座長：車で来ると結構遠回りしている。

橋本委員：以前農林振興班っていうところで、森林を担当していました。その当時森林公園についてもその平成10年代に関わっていました。旧管理棟使われてない状態だったので勿体ないなっていうところで、ピザ釜とかを入れました。今ピザ釜自体は道の駅にあります。柳津中学校の秋の収穫感謝祭をここでやっていました。その当時にサイクリングロードとして整備していました。また、間を縫って、アスレチックがありましたが、腐って危険だということで撤去をしました。現在は、金属の遊具を作ったっていう経過があります。

先ほど菌床舞茸の話ですが、1階部分についてはまだ使えると考えています。ただ担当が違うので何とも言えませんが、2階については寝泊まりできるような畳敷きになっています。簡易なログハウス的には使えるようになっています。ただトイレについては汲み取り式です。今は本当にクマも出ますので、バーベキューとかを禁止、やらない状態にしていますけど、資源としては十分価値があるのかなと町としても思っています。活かしかれて

ないのが現状です。ただ観光客を誘客するっていうよりは、町民の憩いの場として活用する価値は十分あるかなと思っています。

佐藤係長：炊事場でも雨除けができるのでキノコ栽培ができると思いますし、ここは下から水道水をあげているので、水的にも安全です。

山下座長：クマが出るので、BBQはできないってことですが寄せ付けるのですか？

橋本委員：自分担当したときから基本オートキャンプ場に電源を引っ張ってきて、車で来てもキャンプができるようにしてきました。その頃からクマはいました。電気柵とか設置してキャンプ場を守れるようにしてきました。クマの被害はなかったですが、出没件数が多くなってきて、ちょっと難しいかなとなっていました。今と当時で出没件数は変わってはいないです。逆にキャンプファイヤーとかやって盛り上げた方が来ないと思います。少し森林整備して緩衝帯をもっと作ってあげた方がいいのかなって思います。

木村アドバイザー：今後の利活用のための情報として、分かれば教えていただきたいです。何かきっかけがあって利用者が減ったのですか、いつ頃なのか震災の影響なのか？

橋本委員：ここは50年ぐらい前にできています。自分は小学校のころ宿泊体験できた経験があります。プラットフォーム木製のものがあって、そこにテントを張ってそこで1泊2日でバーベキューをやったりしていました。平成一桁のときに国の補助で現管理等の整備と、道路、林道の整備をさせていただいて、遊具関係もつけました。拠点が移転しただけです。その時代から経営の方は振興公社の方に委託していた。そのとき専従の方がいましたが、辞められたタイミングからちょっと元気がなくなった。管理不足で荒れてきました。直接的な社会的な現象が影響しているとは感じていません。

(散策中)

高畠先生：森林の中を歩けるような感じにする方がすごくいいと思います。少しでも下刈りしてちょっと遊歩道を作っていくだけでもずいぶん雰囲気変わると思います。東屋の近くの方はきのこ採取には向いていると思います。山の中に入ってもキノコが出るものじゃない。ちょっと場所を決めて、下刈りしていきただけで(キノコが出てくる)。するところとしないところの差を作るといいと思う。恒常的にやっていかないと、斎藤さんが言っていたかな20年計画で、ようやく10年で回せるように、10年を1年ごとに下刈りをしていく。人が中に入りたくないと思うような林でないとキノコは出てこない。

(2)  
ビジョンを構成する項目について

山下座長：御講演いただきました。高畠先生より第3回講演会の概要をスライドをいただけたらと思います。それから今一緒に散策していただきましたので、何かお気づきの点やこういうふうのできるのではとか、コメントも合わせていただけたらありがたいです。

高畠先生：この林の見た感じの感想ですけれども、非常に整っている林だなと思います。例えばこれぐらいの急傾斜のところに行ってもキノコ採りするのは大変ですから、途中広場みたいなのがあったと思います。そういうところでキノコ採取なんかやられると非常に楽しいと思います。そのときのポイントは遊歩道的なところから2~3メートルぐらいまでのところに多いです。要はやっぱり光が入らないと出てこないです。なおかつ入って行って、散歩して楽しいと思うところ、ブッシュをかき分けていくような感じのところにはあんまりないです。笹が茂り、あるいはブッシュが茂っているようなところはないです。

私がイメージしているのは散歩して、楽しみながらそこら辺にキノコがないかなというふうな感じだろうと想像しています。とにかく安全に、歩いて行って、楽しめるようなところでしかキノコ生えてないです。私はここに入って思ったのは、富山の林よりもキノコ取

りするにはこちらの方が恵まれている気がします。非常にキノコが発生しやすい状況のような気がします。この時点で何かアドバイスないですかと言われてもちょっと困りますが、ただ言えるのはやっぱりそのキノコ生えやすいような状況にしておけば、そのまま何か出てくると思います。ブナやミズナラ、コナラをある一定の長さに切ったものを、そこに置いてくだけで出てくると思います。それをしていたら、大抵木材腐朽菌のような食べられないキノコがよく出てきます。ですから、ナメコやヒラタケなどの菌を打って、そこに立て掛けて置くだけで十分にキノコが出てくると思います。

あとは風通しをできるだけよく良くし、散策を楽しめるような感じのところにしとけば、何らかのきのこっていうのは確実に出てくると思います。唯一気をつけることはキノコ栽培で直射日光は駄目です。直射日光が当たらないように工夫しておけば、何らかの形でキノコを発生する。キノコ栽培のコツはないですが、きのこと一緒に楽しめますよというのは、私の趣旨であります。

(質問時間)

菊地勇委員：うちの方はスギの伐った根っこに白いキノコがいっぱい出ますが、毒だって言っていますが、食べても美味しいのだから、それを栽培する方法を教えてください。

高畠先生：スギヒラタケは難しいです。僕もやったことがあります。スギヒラタケを栽培するというのは菌糸の伸びが遅いので、それでなかなか難しいです。林野庁のホームページでは、スギヒラタケ脳症ということで、あれを食べ過ぎたら、毒キノコ扱いになっています。食べることに注意してくださいということですけど、ここは自分の行動に基づいて食べればいい、今まであれの事例になった人は、1ヶ月間3食、味噌汁佃煮にして1ヶ月間、1日100g程度をずっと1ヶ月間食べ続けた人です。また、腎臓の障害がある人がスギヒラタケ脳症になられて、亡くなられたというようなことになります。一般人にとっては、例えば私なんかは年に1回か2回ぐらいですけど、おすまし等で何回か食べるくらいでは多分亡くなることは難しいと思います。

目黒委員：ムキタケとナメコの菌を育てるといいましたが、天然で出てくる場合もありますが、天然と栽培ではどっちが美味しいですか。

高畠先生：違いはあります。美味しさはそれぞれの好みの問題なので何とも言えませんけど、ムキタケで育てているメーカーは菌糸が伸びやすいある程度いろんなところで、日本全国各地で作っても大丈夫です。地物は地元の気候風土に合っていると思いますので、分離して菌にして作って売り出す、遊んでそれを採取するという方が良いかなと。ムキタケもいろんな種類あります。ちょっと緑がかかったもの、黄色がかかったものといろんなタイプがありますが、私もそれはどういう系統かとまだよくわかりません。けどそれを食べ比べしても面白いです地元のやつと比べてかどうかっていうのはやっぱりそれは天然のものの良さがある。

(3) 50年後の柳津町の森林のあるべき姿について

山下座長：ワークショップではその50年後森林の姿と、こちらの森林公園の活用についての二つのテーマについて話し合ってみましょうと、予定しております。なので、最初に今探索してキノコの話聞いてちょっと熱いうちですので、森林公園について、この場で委員の皆様、オブザーバーの皆様からご意見を出していただければと思いますが、いかがでしょうか。

目黒委員：広いなっていう印象があって、管理の面から言うと、管理棟周辺だけでも何か快適に過ごせるような、まずは小さく誘客できるような空間にするのがいいのかな、それで流行り出したら、広げていく。まずは大きくやらずに、小さく楽しめる場所が作れるとい

いのではないのでしょうか。

菊地勇委員：見通しが悪くて、木が育ちすぎで見えない。見晴らしのいい場所などを作った方が良いと思います。博士山も国有林なので、木が伐れないので若松まで見えなくなってしまった。ポツポツと景観の良い所を作った方が良いと思います。昔はもっと多くの場所で見えました。

大森委員：私も今日初めてここに来ました。今度また自分の子供を連れてきたいなと思うようなところがたくさんありましたが、ただアクセス的に道中の看板が何か少ないような気がして、地元の人には知っていますが、外から来る人としては、何か案内板が国道からあるともっといろんな人を集客できるのではと思いました。

山下座長：運転されてきた方は感じているところかもしれませんが、たぶん看板の位置を変えるだけでも違うのかなと思います。

東委員：見晴台から街がちょっと見えたりすると、もっと柳津ってこういうところなのだと訪れた人も感じられるかなと思うのと、あと私も子供のとき以来にここまで上がってきたときに、車で来るときにここでよかったのかなと不安になりました。昔の見晴らしは普通に見えていました。上から見下ろせてひらけていて明るい感じでした。

山下座長：次の50年後の姿の方に移っていきます。50年後の柳津町の森林のあるべき姿によって、森林といっても人工林とこういう所では違うと思いますが、場所にもよると思うのでご意見いただけたらと思います。参考資料の最後にマインドマップの資料として作っていますので、参考にさせていただきながらとお気づきの点でも構いません。

高畠先生：施設を利用したキノコ栽培について、施設的にかかったものはドラム缶だけです。今日見せていただいた立派な宿泊施設などの部屋があれば十分だと思います。寒ければいらない毛布を掛ければいいです。暑ければ外せばいいので、工夫しながらそこにある施設を利用すればいいと思います。マイタケを事例として昨日説明しましたが、他のキノコでもいろいろ作れる、あるいは楽しめる余地が十分にあると思います。もう一つ食べることがある程度楽しいです。キノコを採って来て食べることや、山菜があるのだったら、春先は山菜を採ってきて、一緒に食事するとやっぱりチームワークというか、そういうのが醸し出されて非常に楽しい思い出になりました。だから焼き芋でもいいから、そこで焚き木を取って食を共にするのは非常に大きな効果があり楽しかったです。

山下座長：食べ物っていうのはすごく引き付けるってと思います。そういう意味でキノコをみんなで育てて、できたら食べるというようなイベントがあったら楽しそうです。

高畠先生：一般市場に出すだけのじゃないので、あるいはスーパーに出すわけじゃないから、規格が関係ないです。だからそこで取れたものだけでやりますから、多少はつきり言ってゴミでも入ったりします。焼き芋もやりましたけど、一緒に食べる。餅つきもやりました。女性の方が大変ですが、食べること喋ることは非常に楽しかったです。

目黒委員：地元の人が気軽に入れる明るい森。里山が身近にある。自然環境の中で、触れるっていうのは50年後も重要だと思いますし、教育場面には使えるような身近な里山、観光資源でも。柳津でも実現できるとしています。只見線が入っていて、柳津駅からここが見える。線路渡れば、このルートと繋がる。駅から散策できて近いです。円蔵寺を含めた観光のルートにもなると思います。線路を渡れる機能が一つあるだけですごいことになる。身近な里山ができ、学校で芋煮会できるすごく場所だと思います。

橋本委員：森林公園のあり方についてですが、森林公園には、人工林も天然林もあり、針葉樹、広葉樹もあります。柳津町の森林のモデル的なところ。高畠先生から説明があった

	<p>ようにキノコの試験地にも使えるのではないか。そのような形でコンパクトに拠点として利用しながら、なおかつ遊び場と利用していく。町としても活用方法が課題です。建設課では難しいですが、価値はあると思っています。</p> <p>齋藤委員：BBQ とか復活させて子どもが来られるような森にしたらよいと思いました。</p> <p>佐藤委員：授業で坂本分校というところで、ツリーイングや山の探索の時に木を使ったブランコがありました。大きさも色々で子供用もありました。</p> <p>菊地勇委員：小さいころから山で生活していますが、昔からやっていた炭焼のようなりサイクルを何百年やっていた。そういうことは一番大事だと思っています。山の体験をしたら絶対に忘れない。そういうことをする場所は大切だと思います。小さい時に山に来ることが、学問だけより体で覚えることがある。</p> <p>杉原委員：毎年小学生向けに森林学級会をしている。山で伐採見学すると、森林に関する考えが変わる。勉強よりこっちが良いという。あとは大径木の行先は、今はバイオマス発電所に売ると安いので、困っている。熊に出会ったときには黙ってじっとしている、体は動かさない。</p> <p>山下座長：林業は流通や切ったものをどうするかってことを専門家からアドバイスをいただいた方が良いでしょう。</p>
<p>(4) その他 オブザーバー等 によるアドバイス等</p>	<p>木村アドバイザー：現場でいろんな意見交換ができてとても良かったです。あと今回の皆さんの意見をメモで良いので残してほしいです。一か月後は今の熱量が下がるので、メモをしたことを次回議論できれば良いと思います。この森林公園に関して、感じたことをお伝えし、アドバイスをしたいです。これだけ素晴らしいポテンシャルのある施設に人が来てないのはとてももったいないなと思いました。ぜひここをベースに利活用、リニューアルを進めていただければと思う。先ほど係長役場の係長さんから最後は町の覚悟だとありました、行政を動かすのには何が必要かという、皆さんの意見です。町民、あるいは若い方々の意見が行政のいろんな判断をする。提供していくので、皆さんの意見を反映させて、町の方にお届けしたいなと思いました。ここは非常に勿体ない施設だったので、リニューアルして教育の場学校教育で利用してほしいです。一年生は1回だけ来ていますが、森林が良かっただけでなく、さらに山の仕事やキノコのことなどもあわせて森林環境学習の中で伝えていただければなと思います。</p> <p>ここを利活用していくときに、「食べる」「動く」それがとても重要な視点だと思います。バーベキュー、キノコ、何か楽しむ人が食べ、食べる後は、先程のブランコじゃないけれども、森林公園来ると体を動かして楽しめる、そういったものが良いと思います。</p> <p>高鷲オブザーバー：箕輪町の研修の時に、非常にいいなと思ったのは森林災害と、木材生産というものを軸にして、分類をして、町の森林をどのようにしていくのかを適切に区域分けしたっていました。これ非常に参考になると思います。箕輪町のときにも、森林散策しましたが、一番感心したのがいろんなものを取ってもいいって看板がありました。貴重なものだけは除いてってことですが、自由にいろんなキノコや山菜など、木の実を採ってもいいっていうふうにすると人が集まりやすいのかなと、人が来るだけで、ここではお金を取らなくても、来てくれたことによって、お金を落としてくれるので経済的な効果がある。それから、キノコの話聞いたのですが、ここでキノコの適した山、人が手入れすることによって、もうキノコの発生もしやすくなるのかなと思います。草を刈るだけでも風通しが良くなりますので、そういう環境を整えてあげると、色々なキノコが発生しやすい山ができると思います。あと炭焼きの看板がありましたけれども、実際にやってみたらいい</p>

かなと思いました。実際にこの森林公園でやることによって、森林学習にもなりますし、そういう体験を活かすことと非常に面白いと感じました。

(道の駅にて)

木村オブザーバー：森林公園では、ピカピカの新しいどんぐり拾いが本当に楽しくって柳津町の子供たちに、経験していただければ、本当に森林で遊んだっていう記憶が根深く植えつけられると思います。平場で歩きやすくて、小学校、幼稚園生の方にも気軽に体験できる場かなと思います。やっぱり休憩のところが少し残念なところがあるので、役場さんの方で、レクリエーションが計れるような森にしていいただければと思います。森林公園っていうのが本当に身近でなくなっています。50年後に将来的には森林公園にふらっと立ち寄って、楽しめる場所に整備されていけばと思います。

市町村森林整備計画という柳津町のマスタープランがある。5つの機能で、すでにゾーニングされていると思いますが、話題にあがっているレクリエーションのエリアがゾーニングされているはずですが、研究会さんが中心で、ビジョンの中でゾーニングの見える化っていうところが必要だと思います。そのまま使えるのであればそのままが良いと思います。また、手入れの遅れた人工林を針広混交林化する事業がありますが、その森林整備のやり方、最後の間伐を強度に行い、広葉樹を入れる等を具体的なビジョンが構築できればというふうに思います。

渡部オブザーバー：奥会津振興センターは地域づくりを行う団体で、奥会津の町村の職員とで、広域的な地域作りを行っている団体です。

委員の皆さんは、いろんな立場の方、年代の方々から意見をいただくことは非常に有意義な場所だと感じておりました。3点ほど感じたことがありました。行政や地域づくりでできるスピード感っていうのがあるので、すぐに何かできるようなところだと、サインです。森林公園には私初めて行きて、森林公園というところでお子さんが集まる場所です。けれども、全く違う視点でこの公園があり、向こうは自然環境に触れられるところがあるので、そこの動線です。ここからは10分程度で行ける場所です。地域の方ももちろん知っているかもしれませんが、ここに来たときに、10分程度で行けるというような表示をキャッチーな形で見せられると、子供たちが行きやすいですし、他にもちょっと行ってみようかなとなるのではないのでしょうか。チラシや看板でもいいですけど、これはすぐにできるのかなって思いました。

6、閉会

皆さんありがとうございました。

以上